

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金358-13		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&JigyosyoCd=0171700198-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和5年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのケア理念「その人らしい生き方を大切に、穏やかで安心した生活を提供します」
 私たちは、利用者一人ひとりの生活と人格を尊重し、見守り、支え合いを第一に、できることはしていただき、日々のささやかな楽しみを大切に、自由で誇りのある暮らしを、みなさまと共に創っていきたくと考えています。
 私たちのホームは市街地のほぼ中央を横断する遊歩道「オランダ通り」に面しているため、緑に囲まれ静かな環境に立地しています。
 オランダ通りを散歩したり、ベンチで日向ぼっこを楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は今金町中心部のオランダ通りという遊歩道に面しています。1ユニット9名の利用者が穏やかな生活を送れるよう取組んでいます。コロナ禍の中でも閉塞的な生活とならないよう、遊歩道で職員とマンツーマンで散歩を楽しんだり、事業所前のベンチで外気浴を行っています。今後は感染予防に努めながら地域との交流と外出を充実していきたいと考えています。職員が大切にしているのは、利用者の尊厳のある生活です。オムツにならないよう、トイレでの排泄をできる限り長く続けてもらい、生活の自信や意欲につなげています。また職員は、理念をもとに日々のケアを見つめ、一人ひとりの利用者の個性を理解し、習慣の継続を支援しています。利用者の理解のために利用者ごとに担当職員を定め、本人の理解を深めるためにセンター方式のアセスメントツールを活用しています。感染予防のため制限のある生活ですが、町外の家族の面会を再開し、地域の温泉に出かける計画を立てるなど、利用者の楽しみのための取組を継続して行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有し、実践している。	職員は、理念を会議で復唱し、利用者一人ひとりについて、「その人らしい生き方」ができています。また、言葉の掛け方についても、相手はどう受け取るかを考えるよう管理者から伝えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため交流は難しい。	コロナ禍により、地域行事が減少し、日常的な地域との交流も限られています。新年度より、面会制限を解除することになっており、徐々に交流を再開する予定です。また、近隣の温泉への移出も予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の情報、知識は知られていない事が多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため参集はできず、書面で報告している。	令和4年度は、コロナウイルス感染防止のため書面会議を開催しています。議事録については家族に送付しています。前年度は外部評価が免除の年度でしたが、自己評価を実施し、会議で内容を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは事務所が対応している。	行政との連絡等は、法人の事務所が一括して担っています。事業所では利用者の認定調査の際などに、利用者の生活状況等を伝えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議等で意見交換を行うなどし、職員全員が理解しケアを行っている。	職員が外部の虐待防止研修を受講しています。虐待や身体拘束について夜勤を含む全職員に伝達しています。身体拘束廃止委員会を組織し、令和4年度は4回開催しています。玄関の施錠は夜間のみとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し職員間で話し合っている。虐待のないケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務所が対応しているが、今後制度について学ぶ機会があるとよい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族が理解できるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は職員で話し合い、事務所へ伝えている。	コロナ禍であり、面会を制限していた時期もあったため、毎月発行する事業所便りに利用者の写真を多く掲載し、現状を伝えています。利用者に関わることは家族と相談し、一緒に利用者を支えられるように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の話は聞いてくれる。	管理者が随時、職員からの要望や意見を聴取しています。職員から個人面談実施の希望がありますが、実施には至っていません。	働きやすい職場作りや離職防止のためにも、職員一人ひとりの意見や要望を聴取する機会として職員面談を実施することを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足ではあるが、働きやすい環境作りに努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過で研修はないが、職員間で話し合い、日々勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	交流は少ないが、そのような場は作っていききたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や基本情報から本人の情報を十分に把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や思いを聞き、納得し安心できるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要とされている支援はなにかを見極められるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線、同じ立場を意識し、助け合える関係である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況はご家族と共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会は難しいが、電話をすることはある。	コロナ禍により、面会ができない旨を玄関にも掲示し、町内の家族以外との面会を行っています。そのため、キーパーソン以外の家族に対しても事業所便りを希望に応じて送付し、関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わりながら、穏やかに生活できる支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ自然な形で対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望は、職員で話し合い共有している。	コミュニケーションが難しい利用者には、二択で質問するなど、答えやすい工夫や、雰囲気などを察して理解に努めています。利用者の希望は職員間で口頭で伝えるとともに、すぐには伝えられないものも伝達ノートや個人記録に記載して実現できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やご本人、ご家族のお話の中から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の変化は、記録や伝達で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を記入し、現状に即したケアプランを作成している。	利用者ごとに担当職員を定め、利用者のアセスメントを行っています。センター方式の書式には他の職員からの情報も加筆し、利用者の現状把握と理解に努めています。計画は6ヶ月おきに策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、センター方式、伝達ノート等で共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に対応し、最善の支援策を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、専門医への受診をしている。	医療機関の選択は、入居時に利用者や家族の希望を受けて決定しています。職員による町内の医療機関での受診支援を行い、訪問診療も受けることができます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、病院と連携できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護報告書、看護報告書で情報を共有し、ご家族、病院と連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期についてご家族と共有している。 ご家族との話し合いをおこない、医療との連携をとっている。	現在、常勤の看護師を配置していないため、看取りは行っていません。重度化した場合でも可能な限り事業所での生活を送ってもらえるよう、職員の目が届きやすい居室に移動してもらうなど、安心して過ごせるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化し、職員が同じ対応ができるようしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練や災害時のシミュレーションをおこなっている。	避難訓練は年2回、昼夜想定で実施しています。また、昨年は豪雨により事業所の近隣で、道路が水没する等の状況となり、避難所への移動のタイミングや、隣接する同一法人の事業所との連携など、課題が明確になりました。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを受入れ、尊厳のある生活がおくれる対応を心掛けている。	毎朝、着たい服を選んでもらったりするなど、職員は常に本人が主体となった生活が送れるようにしています。利用者の答えについて、言葉の裏側にある気持ちも推しはかり支援につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の機会を増やす工夫をしている。 自己決定が難しい利用者にはイメージできる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個別ケアをおこない、本人のペースで生活できる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿った身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や好みの物を提供している。準備や片付け等、できることは一緒に行なっている。	予め利用者の嗜好を把握し、嫌いなメニューの時は別のものを提供しています。開設時に栄養士が作った献立をアレンジし、バランスのよい食事を提供しています。誕生日に献立の希望を聞いたり、いくつかの献立から選んでもらうなど、食事を楽しむ工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、個別に形状や食器等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けと介助で全員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、最後までトイレでの排泄ができる支援をしている。	利用者のトイレに行きたいという意欲を大切に、トイレでの排泄を支援しています。一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っています。排泄の自立を促すことで本人の生活の意欲の向上や自尊心を尊重しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動など工夫しているが、困難な時には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者の体調やタイミングを見て、ゆっくりと入浴できるようにしている。	利用者ごとに毎週2回、ゆっくり入浴したいという利用者の希望を踏まえて、1日に2名づつ入浴を行っています。利用者から温泉に行きたいなどの希望があり、数人ずつ順番に近隣の温泉へ行くことを計画しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで居室やホールで休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、名前、日付の確認をし、誤薬のないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなど利用者が楽しく過ごせる工夫をしている。 散歩、ドライブなどで気分転換できている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出は難しい。 感染予防をして散歩やドライブに出かけている。	コロナ禍のため、事業所の前にある遊歩道を職員と一対一で散歩しています。また、事業所前のベンチの位置を工夫して日向ぼっこなど、外気浴を行い、できるだけ外に出る機会を作り、閉じこもりがちにならないようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持している方もいるが、ほとんどは預り金としてホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は難しいが、電話で会話することはできている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を出す飾りつけをしている。 明るく居心地の良い環境を心掛けているが、音や光に敏感な方もいる。	利用者は日中の時間を居間で過ごしています。音の環境や、温度、湿度など利用者が心地よく過ごせるように配慮しています。それぞれが座る場所を工夫し、職員との歓談をするなど自分の居場所として寛げるようにしています。利用者が一緒に作った作品を目の付くところに掲示し、季節感のある装飾を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの位置を工夫し、自分の好きな場所ですごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真、本人のぬり絵などを置き、安心してすごせるようにしている。	利用者の居室には、家族の写真や、絵や習字など、利用者の思い出や個性を活かした部屋となっています。身体状況に合わせた家具の配置を行うとともに、地震などの際に落下物がないかなども確認しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を付けたり、トイレに表示を付けるなどしている。		